令和７年　国語演習　1

	内容一覧（一年）	問題	解答用紙	解答
1	学びをひらく ・はじまりの風	●	●	●
2	新しい視点で ・ダイコンは大きな根？	●	●	●
3	新しい視点で ・ちょっと立ち止まって	●	●	●
4	心の動き ・大人になれなかった弟たちに……	●	●	●
5	心の動き ・星の花が降るころに	●	●	●
6	筋道を立てて ・「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ	●	●	●
7	いにしえの心にふれる ・蓬莱（ほうらい）の玉の枝―「竹取（たけとり）物語」から	●	●	●
8	いにしえの心にふれる ・今に生きる言葉	●	●	●
9	価値を見いだす ・「不便」の価値を見つめ直す	●	●	●
10	自分を見つめる ・少年の日の思い出	●	●	●

見本

1

令7

学びをひらく

・はじまりの風

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

1年
光村

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（字数制限のある問題では、句読点、記号も一字と数えなさい。）

中学生になったばかりのある日のことだった。レンは、学校の廊下で立ち止まった。①絵が掛けられていることに気づいたのだ。それは見覚えのある風景だった。

そこに描かれたいちょう並木と時計は、この町の一角にある。レンにとっては、子供のころから親しんでいる眺めだった。見慣れているはずの風景なのに、絵の中のその場所は、なぜか新鮮な感じがした。②思わず引きこまれて、じっと見つめた。

（中　略）

中学生になったら新しいことを始めたい。レンはずっとそう思っていた。それが何か、まだわかっていない。同じ小学校から来た友達は、それぞれ、音楽やスポーツなど、小学生のうちからやっていたことを続けていた。ほとんど迷わずに、好きなことを選んでいるようにみえた。③レンは、取り残されたような気がした。

（中　略）

並木に沿って、しばらく歩くと、時計が見えてきた。レンは、はっとした。ちょうど、ここから見た風景だ、あの絵。そう気づいたのだ。絵の中では、④まさにこの位置からの眺めにちがいない。

絵の作者も、ある日、ここに立って辺りを見たのだろう。同じ場所に今、自分も立っている。作者が描いたのと同じ角度から、風景を見ている。この発見に、レンは、ちょっとうれしくなった。［A］、風が吹いてきた。やわらかな春の風は、レンの㋐マエガミをゆらして過ぎていった。

作者がここに立った季節は、いつだったのだろうか。レンにはわからない。［B］、絵の中のいちょう並木は、ピンクと青と緑と黄色で描かれていたからだ。かなり⑤大胆な色使いだが、作者の心には、そのように映ったのだろう。きっと、実際の風景と、作者の想像の風景とが重なり合って、あの絵が生まれたのだ。

春のおだやかな光の中を、レンは、さっきよりもずっと軽い足取りで、いちょう並木を抜けて家に帰った。

月曜日、また絵の所へ行ってみた。いちょう並木と時計。昨日、自分が立った場所を、レンは、絵の中に見た。思い切った㋑シキサイで描かれた風景に、心は㋒躍った。この絵に、そんなにも引きつけられることが、自分でも不思議だった。

「絵が好きなんだね。」

後ろで声がした。レンは㋓振り向いた。美術の先生だった。

「この前も、ここで見ていたでしょう。」

「はい。これ、あのいちょう並木ですよね。」

「ええ、きっと。これを描いた人、この学校の卒業生なんですよ。」

「そうなんですね。」

先生はレンの横に立った。だまって絵を眺める先生のとなりで、レンもその風景を見つめた。

「⑥見えない風を描いているっていうところがいいよね。」

「風――。」

先生はにっこりした。それから、楽しそうな足取りで美術室へ向かうと、ドアを開け、中に入った。ドアが閉まると、辺りはまた静かになった。薄暗い廊下を、窓からの光が照らしている。

もう一度、レンは、ゆっくりと絵を眺めた。確かに、見えないはずの風が表現されている気がした。少し、どきどきした。自分も絵を描いてみたい、と思った。⑦窓から差し込む光が少し強くなり、廊下はさっきよりも明るくなった。

そうだ、絵を描いてみよう。新しいことをやってみよう。

ピンクと青と緑と黄色が、色とりどりのそよ風のように動きだす気がした。レンの心にも、ざわざわと風が吹き始めた。

〈蜂飼耳「はじまりの風」より〉

1　――線㋐～㋓の漢字には、読みがなをつけ、かたかなは漢字に直しなさい。

2　――線①「絵が掛けられている」とあるが、この絵は誰が描いたものか。文章中から三字で抜き出して書きなさい。

3　――線②「思わず引きこまれて」とあるが、それはなぜか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　実際の風景とそっくりの絵が描かれていたから。
イ　子どものころから絵が好きだったから。
ウ　見慣れている風景を描きたいと思っていたから。
エ　大胆な色使いで風景が描かれていたから。

4　――線③「レンは、取り残されたような気がした」とあるが、それはなぜか。「友達」「好き」の二語を使って、三十五字以上四十五字以内で書きなさい。

5　――線④「まさにこの位置からの眺めにちがいない」とあるが、「レン」がそう思った理由が書かれている部分を二十五字で抜き出し、始めの五字を書きなさい。

6　［A］にあてはまる言葉を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　ぶあっと　　イ　ふわりと
ウ　びゅうびゅうと　　エ　がさがさと

7　［B］にあてはまる言葉を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　なぜなら　　イ　すると　　ウ　また　　エ　ところが

8　――線⑤「大胆な」と似た意味の言葉を文章中から五字で抜き出して書きなさい。

9　――線⑥「見えない風を描いているっていうところがいいよね」とあるが、このせりふは誰が言っているか。文章中から五字で抜き出して書きなさい。

10　――線⑦「窓から差し込む光が少し強くなり、廊下はさっきよりも明るくなった」とあるが、この描写からわかる「レン」の気持ちを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　前向きな気持ち　　イ　あせる気持ち
ウ　のんきな気持ち　　エ　恐れる気持ち

2

令7

新しい視点で

・ダイコンは大きな根？

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

1年　光村

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（字数制限のある問題では、句読点、記号も一字と数えなさい。）

1 私たちは、毎日いろいろな種類の野菜を食べています。野菜は植物ですから、根や葉、茎、花、実などの器官からできています。例えば、キャベツやレタスなら葉の部分を食べていますし、トマトやナスなら実の部分を食べています。

2 A、私たちが㋐フダン食べているダイコンの白い部分はどの器官なのでしょうか。漢字で「大根」と書くくらいですから、根のように思うかもしれませんが、そんなに単純ではありません。

3 ①その疑問に答えるために、ダイコンの芽であるカイワレダイコンを見ながら考えてみます。カイワレダイコンは、双葉と根、その間に伸びた胚軸（はい）とよばれる茎から成り立っています。根の部分には、種から長く伸びた主根（しゅこん）と、主根から生えている細いひげのような側根（そっこん）があります。

4 これに対して、私たちが食べるダイコンをよく見てみると、下のほうに細かい側根が付いていたり、側根の付いていた㋑跡に穴が空いていたりするのがわかります。ダイコンの下のほうは主根が太ってできているのです。いっぽう、ダイコンの上のほうを見ると、側根がなく、すべすべしています。この上の部分は、根ではなく胚軸が太ったものです。つまり、ダイコンの白い部分は、根と胚軸の二つの器官から成っているのです。

5 この二つの器官は、じつは味も違っています。なぜ、違っているのでしょう。

6 胚軸の部分は水分が多く、②あまみがあるのが特徴です。胚軸は、地下の根で吸収した水分を地上の葉などに送り、葉で作られた糖分などの栄養分を根に送る役割をしているからです。

7 B、根の部分は辛いのが特徴です。ダイコンは下にいくほど辛みが増していきます。ダイコンのいちばん上の部分と、いちばん下の部分を比較（ひかく）すると、下のほうが十倍も辛み成分が多いのです。ここには、植物の㋒チエともいえる理由がかくされています。

8 根には、葉で作られた栄養分が豊富に運ばれてきます。これは、いずれ花を咲かせる時期に使う大切な栄養分なので、土の中の虫に食べられては困ります。そこで、虫の害から③身を守るため、辛み成分を蓄えているのです。ダイコンの辛み成分は、フダンは細胞の中にありますが、虫にかじられて細胞が破壊されると、化学反応を起こして、辛みを発揮するような仕組みになっています。C、たくさんの細胞が壊れるほど辛みが増すことになります。

9 これらの特徴を活用して調理すると、ダイコンのさまざまな味を引き出すことができます。D、大根下ろしを作るときに、辛いのが好きな人は下の部分が向いていますし、辛いのが苦手な人は上の部分を使うと辛みの少ない大根下ろしを作ることができます。また、ダイコンを力強く直線的に下ろすと、細胞が破壊されて、より辛みが増します。逆に、円を描くようにやさしく下ろせば、破壊される細胞が少なくなり、辛みが㋓抑えられるのです。

10 ④このように、ダイコンの白い部分は異なる器官から成っていて、器官の働きによって味も違うのです。フダン何気なく食べているダイコンも、⑤植物として観察してみると興味深い発見があります。他の野菜はどうでしょうか。いろいろと調べてみると、これまで気づかなかった野菜の新しい魅力が見えてくるかもしれません。

（注）1～10は段落番号である

〈稲垣栄洋「ダイコンは大きな根？」より〉

1 ――線㋐～㋓の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に直しなさい。

2 A～Dにあてはまる言葉を次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 例えば　イ それでは　ウ そのため
エ いっぽう　オ このように

3 ――線①「その疑問」とあるが、「その疑問」の答えとなる部分を文章中から十字で抜き出して書きなさい。

4 ――線②「あまみがあるのが特徴」とあるが、その理由が書かれている部分を二十八字で抜き出し、始めの五字を書きなさい。

5 ――線③「身を守る」とあるが、具体的にはダイコンはどのような仕組みで身を守っているのか。「～されると、～する仕組み。」の形で、「破壊」「辛み」の二語を使って、二十五字以上三十五字以内で書きなさい。

6 辛みを抑えた大根下ろしの作り方を文章中の言葉を使って書きなさい。

7 段落9は文章中でどのような働きをしているか。次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 直前の段落の内容に付け足す補足の働き。
イ 直前の段落内容を受け、新たな問いを示す反論の働き。
ウ 直前の段落内容を裏付ける根拠の働き。
エ 内容全体をしめくくるまとめの働き。

8 段落10で筆者が伝えたいことは何か。「他の野菜」「新しい魅力」の二語を使って、三十字以上四十字以内で書きなさい。

9 ――線④「このように」とあるが、「この」にあたる内容を具体的に表現している段落の組み合わせはどれか。次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 3・4・8段落　イ 3・6・8段落
ウ 4・5・7段落　エ 4・6・7・8段落

10 ダイコンを――線⑤「植物として観察してみる」とは、どんな見方をしてみることか。次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 他の人が考えつかないような見方をしてみるということ。
イ それまでの世の中にない新しい見方をしてみるということ。
ウ フダン見ている見方とは違った見方をしてみるということ。
エ 日頃は見られない部分を探す見方をしてみるということ。

見本

3

令7

新しい視点で

・ちょっと立ち止まって

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

1年
光村

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（字数制限のある問題では、句読点、記号も一字と数えなさい。）

1 自分ではAだと思っていたものが、人からBともいえるとシテキされ、なるほどそうもいえると教えられた経験は多いことだろう。

2 Ⅰの図は「ルビンのつぼ」と題されたものである。よく見ると、この図から二種類の絵を見て取ることができるはずだ。白い部分を中心に見ると、優勝カップのような形をしたつぼがくっきりと浮かび上がる。このとき、黒い部分は①バックにすぎない。今度は逆に、黒い部分に注目してみる。すると、向き合っている二人の顔の影絵が見えてきて、白い部分はバックになってしまう。

3 この図の場合、つぼを中心に見ているときは、見えているはずの二人の顔が見えなくなり、二人の顔を中心に見ると、一瞬のうちに、目からつぼの絵が消え去ってしまう。

4 このようなことは、日常生活の中でもよく経験する。今、公園の池に架かっている橋の辺りに目を向けているとしよう。すると、橋の向こうから一人の少女がやって来る。②目はその少女に引きつけられる。このとき、橋や池など周辺のものは全て、単なる背景になってしまう。カメラでいえば、という間に、ピントが少女に合わせられてしまうのである。ところが逆に、その橋の形が珍しく、それに注目しているときは、その上を通る人などは背景になってしまう。

5 見るという働きには、③思いがけない一面がある。一瞬のうちに、中心に見るものを決めたり、それを変えたりすることができるのである。

6 Ⅱの図の場合はどうであろうか。ちょっとすまして図の奥の方を向いた若い女性の絵と見る人もいれば、毛皮のコートに㋑顎をうずめたおばあさんの絵と見る人もいるだろう。

7 だれでも、ひと目見て即座に、何かの絵と見ているはずだが、そうすると、④別の絵と見ることは難しい。若い女性の絵だと思った人には、おばあさんの絵は簡単には見えてこない。おばあさんの絵と見るためには、とりあえず、今見えている若い女性の絵を意識して捨て去らなければならない。

8 Ⅲの図を見てみよう。化粧台の前に座っている女性の絵が見えるであろう。B この図も、もう一つの絵をかくしもっている。目を遠ざけてみよう。C、たちまちのうちに、この図はどくろを描いた絵に変わってしまう。同じ図でも、近くから見るか遠くから見るかによって、全く違う絵として受け取られるのである。

9 このことは、なにも絵に限ったことではない。遠くから見れば㋐秀麗な富士山も、近づくにつれて、岩石の㋓ロシュツした荒々しい姿に変わる。また、遠くから見ればきれいなビルも、近づいて見ると、ひび割れてすすけた壁面のビルだったりする。

Ⅰ

Ⅱ

Ⅲ

10 私たちは、ひと目見たときの印象に縛られ、一面のみをとらえて、その物の全てを知ったように思いがちである。しかし、一つの図でも風景でも、見方によって見えてくるものが違う。そこで、物を見るときには、ちょっと立ち止まって、⑤他の見方を試してみてはどうだろうか。中心に見るものを変えたり、見るときの距離を変えたりすれば、その物の他の面に気づき、新しい発見のおどろきや喜びを味わうことができるだろう。

（注）1～10は段落番号である

〈桑原茂夫「ちょっと立ち止まって」より〉

1 ――線㋐～㋓の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に直しなさい。

2 A ～ C にあてはまる言葉を次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア すると　イ あるいは　ウ ところが
エ つまり　オ では

3 ――線①「バック」と同じ意味で使われている言葉を文章中から漢字二字で抜き出して書きなさい。

4 ――線②「目はその少女に引きつけられる」ことを言い換えている表現を文章中から十六字で抜き出して書きなさい。

5 ――線③「思いがけない一面」とはどのような一面か。「～という一面。」につながるように文章中から三十五字で抜き出し、始めと終わりの五字を書きなさい。

6 ――線④「別の絵」と見るためにはどのようにすることが必要か。「絵」の一語を使って、十字以上二十字以内で書きなさい。

7 Ⅰ～Ⅲの図にはどのような共通点があるか。次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 目を遠ざけて見ると全く違う絵に見えるという点。
イ 見方によって二種類の異なる絵に見えるという点。
ウ 見る人によって、すべて違う絵に見えるという点。
エ どこを中心に見るかによって違う絵に見えるという点。

8 1、2、3の段落の役割を次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 話題の提示　イ 例示
ウ 筆者の意見　エ 補足・説明

9 ――線⑤「他の見方を試してみてはどうだろうか」について、次の問いに答えなさい。

(1) 筆者がこのように主張するのは私たちがどのようなことにおちいってしまうからか。それが説明されている一文を抜き出し、始めの五字を書きなさい。

(2) 「他の見方」とはどのような見方か。文章中の言葉を使って、「～見方」につながるように二つ書きなさい。

(3) 筆者が「他の見方」をすすめているのはなぜか。「見た物」「発見」の二語を使って、三十字以上四十字以内で書きなさい。

4

令7

心の動き

・大人になれなかった弟たちに……

1年　光村

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（字数制限のある問題では、句読点、記号も一字と数えなさい。）

十日間くらい入院したでしょうか。

ヒロユキは死にました。

暗い電気の下で、小さな小さな口に綿に含ませた水を飲ませた夜を、僕は忘れられません。泣きもせず、弟は静かに息をひきとりました。母と僕に見守られて、弟は死にました。病名はありません。①栄養失調です……。

死んだ弟を母がおんぶして、僕は片手にやかん、そして片手にヒロユキの身の回りのものを入れた小さなふろしき包みを持って、家に帰りました。

②白い乾いた一本道を、③三人で山の村に向かって歩き続けました。バスがありましたが、母は弟が死んでいるのでほかの人に㋐遠慮したのでしょう、三里の道を歩きました。

④空は高く高く青く澄んでいました。ブウーンブウーンというB29の独特のエンジンの音がして、青空にきらっきらっと機体が美しく輝いています。道にも畑にも、人影はありませんでした。歩いているのは三人だけです。

母がときどきヒロユキの顔に飛んでくるはえを手ではらいながら、言いました。

「⑤ヒロユキは幸せだった。母と兄とお医者さん、看護婦さんにみとられて死んだのだから。㋑クウシュウの㋒爆撃で死ねば、みんなばらばらで死ぬから、もっとかわいそうだった。」

家では祖母と妹が、泣いて待っていました。部屋を貸してくださっていた農家のおじいさんが、㋓スギイタを削って小さな小さな棺を作っていてくださいました。弟はその小さな小さな棺に、母と僕の手でねかされました。小さな弟でしたが、棺が小さすぎて入りませんでした。

母が、大きくなっていたんだね、とヒロユキのひざを曲げて棺に入れました。⑥そのとき、母は初めて泣きました。

父は、戦争に行ってすぐ生まれたヒロユキの顔を、とうとう見ないままでした。

弟が死んで九日後の八月六日に、ヒロシマに原子爆弾が落とされました。その三日後にナガサキに――。

そして、六日たった一九四五年八月十五日に戦争は終わりました。

⑦僕はひもじかったことと、弟の死は一生忘れません。

〈米倉斉加年「大人になれなかった弟たちに……」より〉

1 ――線㋐～㋓の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に直しなさい。

2 ～～線「母と僕に見守られて、弟は死にました」とあるが、この一文はいくつの文節で成り立っているか。漢数字で書きなさい。

3 ――線①「栄養失調」とあるが、栄養失調で体が弱っている様子を表す部分を文章中から五字で抜き出して書きなさい。

4 ――線②「白い乾いた一本道」について次の問いに答えなさい。

(1) 「白い乾いた一本道」を歩く「僕」の気持ちを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 暑さに負けず強く生きようとする気持ち。
イ 道のりが長く、うんざりする気持ち。
ウ 自分たちだけ歩くことへの怒りの気持ち。
エ 悲しみにたえながらも、うつろな気持ち。

(2) この道のさびしさを音で際立たせている一文を抜き出し、始めの五字を書きなさい。

5 ――線③「三人」とはだれを指しているか。文章中から漢字一字ですべて抜き出して書きなさい。

6 ――線④「空は高く高く青く澄んでいました」という情景描写は、どのようなことが描かれているか。次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 僕の心情と対照的な空の様子が描かれている。
イ 美しい情景に心奪われている様子が描かれている。
ウ 僕の心情と似た美しい空の様子が描かれている。
エ 暑い夏の終わりと秋の訪れが描かれている。

7 ――線⑤「ヒロユキは幸せだった」とあるが、母がそう言ったのはなぜか。次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ヒロユキはまだ物心がつく前であったから。
イ なんとかヒロユキの死を受け止めようとしたから。
ウ ヒロユキの兄の「僕」は助けることができたから。
エ ヒロユキは苦しまずに死を迎えることができたから。

8 ――線⑥「そのとき、母は初めて泣きました」について、次の問いに答えなさい。

(1) 「そのとき」とはいつのことか。「～とき。」につながるように、文章中の言葉を使って書きなさい。

(2) 母が初めて泣いたのは、ヒロユキに対するどのような思いからか。「～思い。」につながるように、「成長」「わが子」の二語を使って、二十五字以上三十五字以内で書きなさい。

9 ――線⑦「僕はひもじかったことと、弟の死は一生忘れません」には作者のどのような思いが込められているか。「～思い。」につながるように、「つらさ」「戦争」の二語を使って、二十五字以上三十五字以内で書きなさい。

見本

5

令7

心の動き

・星の花が降るころに

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（字数制限のある問題では、句読点、記号も一字と数えなさい。）

銀木犀の花は甘い香りで、白く小さな星の形をしている。そして雪が降るように音もなく落ちてくる。去年の秋、夏実と二人で木の真下に立ち、花が散るのを長いこと見上げていた。気がつくと、地面が白い星形でいっぱいになっていた。これじゃふめない、これじゃもう動けない、と夏実は幹に体を寄せ、二人で木に閉じ込められた、そう言って笑った。

―ガタン！

びっくりした。①去年のことをぼんやり思い出していたら、机にいきなり戸部君がぶつかってきた。戸部君は振り返ると、後ろの男子に向かってどなった。

「やめろよ。押すなよなあ。㋐オレがわざとぶつかったみたいだろ。」

自習時間が終わり、昼休みに入った教室はがやがやしていた。

（中　略）

学校からの帰り、少し回り道をして②銀木犀のある公園に立ち寄った。

銀木犀は常緑樹だから一年中葉っぱがしげっている。それをきれいに丸く刈り込むので、木の下に入れば丸屋根の部屋のようだ。夏実と私はここが大好きで、③二人だけの秘密基地と決めていた。ここにいれば大丈夫、どんなことからも木が守ってくれる。そう信じていられた。

夕方に近くなっても日差しはまだ強い。木の下は陰になってすずしかった。

掃除をしているおばさんが、草むしりの手を休めて話しかけてきた。

「いい木だよねえ、④こんな時期は㋑木陰になってくれて。けど春先は、葉っぱが落ちて案外㋒厄介なんだよ、掃除がさ。」

私は首を［A］。常緑樹は一年中葉っぱがしげっているはずなのに。

「え、葉っぱはずっと落ちないんじゃないんですか。」

「まさか。どんどん古い葉っぱを落っことして、その代わりに新しい葉っぱを生やすんだよ。そりゃそうさ。でなきゃあんた、いくら木だって生きていけないよ。」

帽子の中の顔は暗くてよくわからなかったけれど、笑った歯だけは白く見えた。おばさんは、よいしょと言って掃除道具を㋓カカえると公園の反対側に歩いていった。

私は真下に立って⑤銀木犀の木を見上げた。

⑥かたむいた陽が葉っぱの間からちらちらと差し、半円球の宙にまたたく星みたいに光っていた。

ポケットからビニール袋を取り出した。花びらは小さく縮んで、もう色がすっかりあせている。

袋の口を開けて、星形の花を土の上にぱらぱらと落とした。

ここでいつかまた夏実と花を拾える日が来るかもしれない。それとも違う誰かと拾うかもしれない。あるいはそんなことはもうしないかもしれない。

どちらだっていい。大丈夫、きっとなんとかやっていける。

⑦私は銀木犀の木の下をくぐって出た。

〈安東みきえ「星の花が降るころに」より〉

1　――線㋐～㋓の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に直しなさい。

2　――線①「去年のこと」とあるが、ここで「私」が思い出していることはどんなことだと考えられるか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　銀木犀の木に閉じ込められてしまって嫌だったこと。
イ　銀木犀の花の香りは夏実の大好きな香りだったこと。
ウ　銀木犀の木の下で夏実と過ごして楽しかったこと。
エ　雪が降るように散る銀木犀の花が珍しかったこと。

3　――線②「銀木犀」の木の下の空間のことを表した比喩を、文章中から十字で抜き出して書きなさい。

4　――線③「二人だけの秘密基地」とあるが、「私」と夏実はどのような場所だと感じていたか。「～場所。」につながるように、十字以上二十字以内で書きなさい。

5　［A］にあてはまる言葉を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　縦に振った　　イ　横に振った
ウ　長くした　　エ　かしげた

6　――線④「こんな時期」を、具体的に描いている表現を文章中から十七字で探し、始めの三字を書きなさい。

7　――線⑤「銀木犀の木」は、何を象徴しているか。次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　周りの人々の愛情　　イ　おばさんへの感謝
ウ　夏実の優しさ　　エ　楽しかった思い出

8　――線⑥「かたむいた陽が～光っていた」という描写には、「私」のどのような気持ちが表れているか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　これからの新たな生活に対する希望。
イ　公園に別れを告げようとする悲しみ。
ウ　夏実との楽しい思い出に対するさびしさ。
エ　新しく葉っぱを生やす銀木犀への感動。

9　――線⑦「私は銀木犀の木の下をくぐって出た」とあるが、私は何を決意したのか。「～決意した。」の形で、「夏実」「友情」の二語を使って、二十五字以上三十五字以内で書きなさい。

6

令7

筋道を立てて

・「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

1年
光村

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（字数制限のある問題では、句読点、記号も一字と数えなさい。）

仮説

私は、これらの観察から、シジュウカラの「ジャージャー」という鳴き声が、警戒すべき対象としての「ヘビ」を意味する「単語」になっているのではないかという①仮説を立てました。ここでの「単語」とは、「ヘビ」や「タカ」といった異なる意味を伝える一つ一つの鳴き声だと定義することにします。

A

㋐、シジュウカラの「ジャージャー」という鳴き声がヘビを示す「単語」であるかどうかを調べるには、どうすればよいのでしょうか。②鳴き声を発する状況を記録するのはもちろんですが、それだけでは意味を確かめることはできません。ヘビの存在をつがい相手に伝えるために「ジャージャー」と鳴いているのか、それとも単なる恐怖心（きょうふしん）から鳴き声を発しているのかが区別できないからです。そこで私は、鳴き声を聞いたシジュウカラが、どのように振る㋑マうのかを㋒クワしく調べてみることにしました。もし「ジャージャー」という鳴き声がヘビを意味する「単語」であるならば、それを聞いたシジュウカラはヘビを警戒するようなしぐさを示すかもしれないと考えたのです。

まず、③あらかじめ録音しておいた「ジャージャー」という鳴き声を基に、三分の長さの音声ファイルを作成しました。シジュウカラのつがいのうち一羽が、ヘビを見つけてくり返し「ジャージャー」と鳴いている状況をまねたのです。そして、その音声をヘビのいない状況でスピーカーから流して聞かせ、シジュウカラの行動変化を観察しました。

B

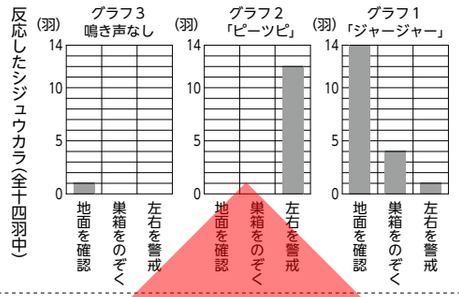
シジュウカラは、「ジャージャー」という鳴き声を聞くと、巣箱が㋓カかった木の周辺で地面をじっと見下ろしたり、時には巣箱の穴をのぞいたり、普段とは明らかに異なるしぐさを示しました（グラフ1）。㋑、カラスやネコなどを警戒するときの「ピーツピ」という鳴き声を聞かせても、④これらの行動は見られず、首を左右に振り、周囲を警戒するだけでした（グラフ2）。また、鳴き声を流さない場合には、どのような種類の警戒行動もほとんど示しませんでした（グラフ3）。

C

ヘビは地面から木をはい上り、巣箱に侵入（しんにゅう）して卵やひなを襲います。親鳥が卵やひなを守るためには、ヘビをいち早く見つけ出し、追い払わなければなりません。⑤「ジャージャー」という鳴き声を聞いて地面や巣箱を確認しに行くことは、親鳥がヘビの㋔居場所をつき止めるうえで大いに役立つと考えられます。

しかし、この実験結果から、シジュウカラの「ジャージャー」という鳴き声がヘビを示す「単語」であると、十分に主張できるでしょうか。もしかしたら、「ジャージャー」という鳴き声は、「地面や巣箱を確認しろ。」といった命令であり、それを聞いたシジュウカラはヘビの姿をイメージすることなく、それらの行動を取ったのかもしれません。

〈鈴木俊貴『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ」より〉



1 ═══線㋐～㋔の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に直しなさい。

2 〰〰線「シジュウカラの行動変化を観察しました」を文節と単語に分け、その数を漢数字で答えなさい。

3 ［㋐］、［㋑］にあてはまる言葉を次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア そして　イ しかし　ウ また
エ では　オ いっぽう

4 ═══線①「仮説」とあるが、この仮説が正しければ、「ジャージャー」という鳴き声を聞いたシジュウカラはどのような振るまいをすると筆者は考えているか。文章中から十六字で抜き出し、始めの五字を書きなさい。

5 ═══線②「鳴き声を～できません」とあるが、それはなぜか。次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 鳴き声を発する状況を記録しただけでは、シジュウカラの行動変化を観察することができないから。
イ ヘビの存在を伝える鳴き声は、本来「ヘビ」を意味する鳴き声ではないと考えられるから。
ウ ヘビの存在を伝えているのか、単なる恐怖心から鳴き声を発しているのかが区別できないから。
エ 鳴き声を発する状況を記録しても、それはカラスやネコを意味する鳴き声かもしれないから。

6 ═══線③「あらかじめ録音～作成しました」とあるが、これはどのような状況をまねたものか。次の文の［　］に入る言葉を五字以上十字以内で書きなさい。

＊シジュウカラのつがいの一羽が、［　］状況

7 ═══線④「これらの行動」とは具体的にはどのような行動か。文章中の言葉を使って、「～行動。」につながるように十字以上十五字以内で書きなさい。

8 グラフ2から分かることは何か。四十字以上五十字以内で書きなさい。

9 ═══線⑤「『ジャージャー』という鳴き声を聞いて地面や巣箱を確認しに行くこと」とあるが、なぜシジュウカラはそのような行動をとるのか。理由がわかる一文を文章中から抜き出し、始めの五字を書きなさい。

10 この文章の構成について、［A］・［B］・［C］にあてはまる組み合わせを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ［A］：仮説の理由　［B］：結果　［C］：考察
イ ［A］：仮説の理由　［B］：結果　［C］：まとめ
ウ ［A］：仮説の検証　［B］：理由　［C］：まとめ
エ ［A］：仮説の検証　［B］：結果　［C］：考察

7

令7

いにしえの心にふれる

・蓬莱の玉の枝ー「竹取物語」から

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

I 年

光 村

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（字数制限のある問題では、句読点、記号も一字と数えなさい。）

今は昔、竹取の①翁と。いふものありけり。野山にまじりて
今ではもう昔のことだが、竹取の翁とよばれる人がいた。　野や山に分け入って
竹を取りつつ、bよろづのことに使ひけり。名をば、
竹を取っては、　いろいろな物を作るのに使っていた。　名前を、
さぬきのみやつことなむいひける。
さぬきのみやつことなむいひける。
その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。②あやしがり
（ある日のこと、）その竹林の中に、根元の光る竹が一本あった。
て、あ寄りて見るに、筒の中光りたり。それを見れば、
近寄って見ると、　筒の中が光っている。　それを見ると、
三寸ばかりなる人、いとcうつくしうてdゐたり。
（背丈）三寸ほどの人が、　まことにかわいらしい様子で座っていた。

美しい娘に成長したかぐや姫は、五人の貴公子の求婚をかわし、ぜひ宮中に迎え入れたいという帝の求めも断る。そして、中秋の名月の夜、かぐや姫の元に月から迎えの使者がやってくる……。

㋐中秋の名月の夜、帝は、二千人の兵士をイツカわして翁の家を守るようお命じになった。しかし、月の都の人々を見ると、兵士たちはぼうっとして戦意を失い、固く閉ざした戸口も自然に開いてしまった。

天人は泣いて引き止めようとする翁に、

「かぐや姫は天上で罪を犯されたので、このけがれた地上にいらっしゃったのだ。今はその罪も消えたので、こうして迎えに来たのである。早く返しなさい。」

と言う。かぐや姫は天人を待たせ、翁と帝に心の籠もった手紙を書いた。翁には着ていた衣を、帝には、天人の持参した不死の薬をウソえた。書き終えると、天人が、かぐや姫に天の㋓羽衣を着せかけた。

（中略）

帝は、かぐや姫から不死の薬を贈られていたが、かぐや姫のいないこの世にいつまでもとどまる気がしない。そこで、

「どの山が天に近いか。」

とお尋ねになると、ある人が、③駿河の国にある山が、都からも近く天にも近いとお返事申しあげたので、その山に使者をおツカわしになった。

御文、不死の薬の壺並べて、火をつけて燃やすべきよし
（帝は）お手紙と、不死の薬の壺を並べて、火をつけて燃やすようにと、
い仰せたまふ。
ご命令になった。
④そのよしうけたまはりて、⑤士どもあまた具して山へ
その旨（A）承って、　山に
う登りけるよりなむ、その山を「⑥ふじの山」とは名づけける。
登ったということから、その山を（「士に富む山」、つまり）「ふじの山」と名づけたのである。
その煙、いまだ雲の中へ立ち上るとぞ、言ひ伝へたる。
その煙（B）、いまだに雲の中へ立ち上っていると、　言い伝えられている。

〈「竹取物語」より〉

1 ――線㋐～㋓の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に直しなさい。

2 ～～線a～dを現代仮名遣いに直して、すべてひらがなで書きなさい。

3 ――線①「翁」の意味を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 年をとった男性　イ 年をとった女性
ウ 若い男性　エ 若い女性

4 ――線②「あやしがりて」について、次の問いに答えなさい。

(1) 「あやしがりて」を現代語訳して書きなさい。

(2) 何を見てそう思ったのか。それを指すものを原文中から五字で抜き出して書きなさい。

5 竹林の中で翁が見た光景とは、どのような光景か。「三寸」の一語を使って、「～光景。」につながるように、十五字以上二十五字以内で書きなさい。

6 ――線③「駿河の国にある山」とあるが、この山の名前を書きなさい。

7 ――線④「そのよし」の内容を「～こと。」につながるように、二十五字以上三十五字以内で書きなさい。

8 ――線あ「寄りて見る」、――線い「仰せたまふ」、――線う「登りける」はそれぞれ誰がしたことか。次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 読者　イ 作者　ウ 翁
エ 天人　オ 士ども　カ 帝
キ かぐや姫　ク 使者　ケ ある人

9 現代語訳の（A）・（B）にあてはまる言葉をそれぞれひらがな一字で書きなさい。

10 ――線⑤「士どもあまた具して」を現代語訳して書きなさい。

11 ――線⑥「ふじの山」とあるが、帝はなぜ、「ふじの山」でかぐや姫からもらったものを燃やすことにしたのか。その理由を次の二人の会話を踏まえて、「～と考えたから。」につながるように、三十字以上四十字以内で書きなさい。

Aさん「天に近い山で手紙や薬を燃やしたいと帝は考えたんだね。」
Bさん「そうすれば、煙が天に届くと思ったのかもしれないね。」
Aさん「自分の思いを天に昇ったかぐや姫に伝えたかったんだろうね。」

見本

8

令7

いにしえの心にふれる

・今に生きる言葉

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（字数制限のある問題では、句読点、記号も一字と数えなさい。）

中国の古典に由来する言葉には、歴史的な事実や古くから伝えられているたとえ話、エピソードなど、故事を背景にもっているものがある。「矛盾」「①推敲」「②蛇足」「③四面楚歌」などのように、故事から生まれた言葉を［A］という。

「矛盾」という言葉は、今から二千年以上も前に「韓非子」という書物に書かれた次のような故事が基になっている。

【書き下し文】

矛盾

a楚人に、盾と矛とを鬻ぐ者有り。

之を誉めて㋐曰はく、「b吾が［Ⅰ］の堅きこと、④能く陥すもの莫きなり。」と。

又、其の［Ⅱ］を誉めて曰はく、「吾が［Ⅱ］の⑤利なること、物に於いて⑥陥さざる無きなり。」と。

c或るひと曰はく、「⑦子の矛を以て、子の⑧盾を陥さば如何。」と。

d其の人、㋑応ふること能はざるなり。

【現代語訳】

楚の国の人で、盾と矛を売る者がいた。

（その人が）［Ⅰ］をほめて、「私の［Ⅰ］の堅いことといったら、［　　］。」と言った。

また、［Ⅱ］をほめて、「私の［Ⅱ］のするどいことといったら、どんなものでも［　　］。」と言った。

（そこで、）ある人が、「あなたの矛で、あなたの盾を［　　］。」と尋ねた。

⑨その人は答えることができなかったのである。

〈「今に生きる言葉」「韓非子」より〉

1 ――線①「推敲」、②「蛇足」、③「四面楚歌」の意味を次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 古い習慣にとらわれて、進歩がないこと。
イ 余計な付け足しのこと。
ウ 敵の中に孤立して、助けてくれる者がいないこと。
エ 目上の人に激しく怒られること。
オ 詩や文を書くとき、言葉や表現を何度も練り直して、よりよくすること。

2 ［A］にあてはまる言葉を漢字で書きなさい。

3 ――線㋐、㋑を現代仮名遣いに直して、すべてひらがなで書きなさい。

4 ［Ⅰ］・［Ⅱ］に入る漢字をそれぞれ書き下し文の中から抜き出して書きなさい。

5 ――線④「能く陥すもの莫きなり」、――線⑥「陥さざる無きなり」、――線⑧「盾を陥さば如何」の現代語訳を書きなさい。

6 ――線⑤「利なる」の「利」と同じ意味のものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 利益　イ 鋭利　ウ 利点　エ 便利

7 ――線⑦「子」について、次の問いに答えなさい。

(1) 「子」を具体的に表す言葉を現代語訳から七字で抜き出して書きなさい。

(2) 〰〰線a～dの中で、「子」とは違う人を表している言葉を一つ選び、記号で答えなさい。

8 ――線⑨「その人は答えることができなかった」とあるが、なぜ答えることができなかったのか。現代語訳を参考にし、「矛」「盾」「つじつま」の三語を使って、五十字以上六十字以内で書きなさい。

9 次のように漢文で記した場合、返り点に従って、読む順番を□に数字で書きなさい。

□ 莫 □ 能 □ 陥 □ 也。

10 左のア～ウの絵を「矛盾」の話に合うように正しい順序に並べ変え、順に記号で答えなさい。

ア

イ

ウ

↓

1年　光村

見本

9

令7

価値を見いだす

・「不便」の価値を見つめ直す

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（字数制限のある問題では、句読点、記号も一字と数えなさい。）

1　こうして集めた事例を整理すると、「不便益」とは何かが浮かび上がってくる。まだ整理の途中の段階ではあるが、主には①次のようなことが挙げられるだろう。

2　A、物事を達成するのにかかる時間や道のりが多くなる分、発見や出会いの機会が増える。次に、体力や知力、技術力の㋐維持や向上を㋑促す。自分の体や頭を使うことが、自然と体力・知力・技術力の低下を防ぎ、それらを向上させるからだ。また、「不便」であることは、人間の意欲を向上させる効果もある。自分で考えたり工夫したりする余地があるからこそ、取り組むときのモチベーションが高まり、成し遂げたときの達成感が大きくなるのだ。B、一つの事例に複数の「不便益」が含まれることも少なくない。例えば、タクシーよりも徒歩のほうが発見や出会いの機会が増えるとともに、運動能力の低下を防ぐことにもなる。

3　これらの「不便益」は、「不便」だからこそ得られるものだ。「便利はよいこと」で「不便は悪いこと」という②固定観念にとらわれ、ただ無批判に「C」なほうばかりを選んでいては、「D」の価値を見落としてしまう。さらに、「便利はよいこと」という考えの下、社会全体が「便利」だけを追求していけば、私たち一人一人は自分でどちらかを選ぶことすらできないまま、知らぬ間に、本来得られていた楽しさや喜びが失われたり、自分の能力を発揮する機会が奪われたりすることになるだろう。

4　誤解してほしくないのは、私は便利であることを否定し、昔の不便な生活に戻ろうと言っているわけでも、不便なことは全てすばらしいと考えているわけでもないということだ。「不便」だからこそ得られるよさがあることを認識し、それを生かして新しいデザインを創り出そうというのが「不便益」の考え方なのである。今、③この考え方に㋒サンドウする仲間たちによって、自動車の運転支援の在り方や観光ツアーの仕掛け作りなど、④さまざまな分野で新たな研究や提案がなされ始めている。

5　「不便益」は、物事のデザインだけでなく、日常生活にも生きる発想だ。あなたの日々の生活の中で、「不便で嫌だな。」「㋓メンドウくさいな。」と思ってさけてきた物事の中に、実は、新しい気づきや楽しみが隠れているかもしれない。これまでの常識とは異なる別の視点をもつことで、世界をもっと多様に見ることができるようになるはずだ。あなたの周りには、どんな「不便益」があるだろうか。⑤もう一度、生活を見つめ直してみよう。

（注）1～5は段落番号である。

〈川上浩司「『不便』の価値を見つめ直す」より〉

1　㋐～㋓の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に直しなさい。

2　A・Bにあてはまる言葉を次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア　しかし　イ　つまり　ウ　まず　エ　なお

3　①「次のようなことが挙げられる」とあるが、「次のようなこと」とは何を指すか。文章中から三つ、それぞれ ア 十三字、イ 十八字、ウ 十一字で抜き出し、始めの五字を書きなさい。

4　②「固定観念」について、次の問いに答えなさい。

(1)　「固定観念」にとらわれていると、どうなってしまうと筆者は述べているか。次から二つ選び、記号で答えなさい。

ア　「便利」が本当によいことか疑わしくなる。
イ　本来得られていた楽しさや喜びがなくなる。
ウ　便利な社会が個人に、より豊かさをもたらす。
エ　自分の能力を発揮するチャンスが失われる。
オ　個人より社会の「便利」が優先されてしまう。

(2)　「固定観念」と似た意味を表している言葉を、4段落以降から七字で抜き出して書きなさい。

5　C・Dにあてはまる言葉を、文章中からそれぞれ二字で抜き出して書きなさい。

6　③「この考え方」とあるが、これはどのような考え方か。文章中の言葉を使って、「～考え方。」につながるように、三十字以上四十字以内で書きなさい。

7　④「さまざまな分野」とあるが、どのような分野が例として挙げられているか。文章中から二つ抜き出して書きなさい。

8　⑤「もう一度、生活を見つめ直してみよう」とあるが、このように筆者が述べているのはなぜか。「不便だ」「楽しみ」の二語を使って、四十五字以上五十五字以内で書きなさい。

9　筆者が述べている内容として、最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　不便であることは、能力の発揮や向上につながるなど、全てにおいてよいことばかりである。
イ　不便であることに対して、常識と異なる視点をもつと、世界をより多様に見ることができる。
ウ　不便であることは、人間の意欲や、能力を向上させる機会を失わせるので、同意はできない。
エ　不便であることも、便利であることも、社会にとっては大切なことだからバランスが必要だ。

10　1～5段落のまとまりを示した図として、適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　1 2 - 3 4 - 5　　イ　1 2 - 3 - 4 - 5
ウ　1 2 3 - 4 5　　エ　1 2 3 - 4 - 5

10

令7

自分を見つめる

・少年の日の思い出

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

1年
光村

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（字数制限のある問題では、句読点、記号も一字と数えなさい。）

「僕」は熱情的なちょうの収集家である。隣人のエーミールという少年が珍しいちょうを持っていると聞き、見に行ったものの、つい盗みを犯してしまう。我に返ったとき、ちょうはポケットの中でつぶれていた。すぐに「僕」はそれをエーミールの部屋にもどしたが、母親のすすめで謝罪にいくことにした。

＊　＊　＊

二人は上に上がっていった。彼はろうそくをつけた。僕は、だいなしになったちょうが展翅板（てんし）の上に載っているのを見た。エーミールがそれを繕うために努力した跡が認められた。壊れた羽は㋐丹念に広げられ、ぬれた吸い取り紙の上に置かれてあった。しかし、①それは直すよしもなかった。触角もやはりなくなっていた。そこで、②それは僕がやったのだ、と言い、詳しく話し、説明しようと試みた。

A、エーミールは、激したり、僕をどなりつけたりなどはしないで、低く「ちぇっ。」と舌を鳴らし、しばらくじっと僕を見つめていたが、それから、

「そうか、そうか、B③君はそんなやつなんだな。」

と言った。

僕は、彼に、僕のおもちゃをみんなやる、と言った。C、彼は冷淡（れいたん）に構え、依然僕をただ軽蔑的に見つめていたので、僕は、自分のちょうの収集を全部やる、と言った。しかし、彼は、「結構だよ。僕は、君の集めたやつはもう知っている。そのうえ、今日また、④君がちょうをどんなに取り扱っているか、ということを見ることができたさ。」

と言った。

その瞬間、⑤僕は、すんでのところであいつの喉笛に飛びかかるところだった。もうどうにもしようがなかった。僕は悪漢だということに決まってしまい、エーミールは、まるで世界のおきてを代表でもするかのように、冷然と、正義を盾に、あなどるように僕の前に立っていた。彼はののしりさえしなかった。ただ僕を㋑ナガめて、軽蔑していた。

そのとき、初めて僕は、一度起きたことは、もう㋒償いのできないものだということを悟った。僕は立ち去った。母が根掘り葉掘りきこうとしないで、⑥僕にキスだけして、構わずにおいてくれたことをうれしく思った。僕は、「とこにお入り。」と言われた。僕にとってはもう遅い時刻だった。だが、その前に、僕は、そっと食堂に行って、大きなとび色の厚紙の箱を取ってき、それを寝台（しんだい）の上に載せ、㋓ヤミの中で開いた。D、⑦ちょうを一つ一つ取り出し、指で粉々に押しつぶしてしまった。

〈ヘルマン・ヘッセ作　高橋健二訳
「少年の日の思い出」より〉

1　──線㋐～㋓の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に直しなさい。

2　～～線「言った」の主語になる一文節を抜き出して書きなさい。

3　A～Dにあてはまる言葉を次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア　また　　イ　つまり　　ウ　そして
エ　それでも　　オ　だから　　カ　すると

4　──線①「それは直すよしもなかった」が表す意味を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　直す理由はもうなかった　　イ　直す方法はもうなかった
ウ　直す意味はもうなかった　　エ　直す元気はもうなかった

5　──線②「それは僕がやったのだ～説明しようと試みた」とあるが、「僕」はエーミールにどのようなことをわかってほしかったのか。「盗み」「すぐに」「壊す」の三語を使って、三十五字以上四十五字以内で書きなさい。

6　──線③「君はそんなやつなんだな」とあるが、エーミールは、どのように言ったと考えられるか。次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　怒りを込めた大声で　　イ　低く冷たい声で
ウ　甲高い声で早口に　　エ　笑うような声で

7　──線④「君がちょうをどんなに取り扱っているか」が表す意味を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　ちょうの価値に全く興味がない、無欲な人間だ。
イ　ちょうをむやみに集めようとする、欲深い人間だ。
ウ　ちょうをすぐに壊してしまう、不器用な人間だ。
エ　ちょうを大切にできない、つまらない人間だ。

8　──線⑤「僕は、すんでのところであいつの喉笛に飛びかかるところだった」とあるが、それはなぜか。次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　「僕」が悪いと激しく責め立てられたから。
イ　「僕」には実現不可能なことを要求されたから。
ウ　「僕」のちょうに対する思いまで否定されたから。
エ　「僕」の犯した悪事が全て明らかにされたから。

9　──線⑥「僕にキスだけして、構わずにおいてくれた」とあるが、このときの母の心情を表す言葉として、最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　安堵　　イ　いたわり　　ウ　焦燥
エ　戸惑い　　オ　歓喜

10　──線⑦「ちょうを一つ一つ～押しつぶしてしまった」とあるが、「僕」がこのような行動をとったのはなぜか。「償い」の一語を使って、四十五字以上五十五字以内で書きなさい。ただし、書き出しは、「エーミールが」とすること。

目次へ戻る

④ × 6						⑥ × 1				④ × 2		③ × 4	
10 思	9 思	8 思	7 思	6 思	5 思	4 思				3 思	2 思	1 知	
			B	A								ウ	ア
												った	
												エ	イ
						45							
							35					り	

観点別

知・技	思・判・表
/12	/38

1

令7

はじまりの風

1 年 組 番

氏名

得点

見本

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

目次へ戻る

③ × 2		④ × 1			③ × 2		④ × 1			③ × 6			③ × 4	
10 思	9 思	8 思			7 思	6 思	5 思			4 思	3 思	2 思	1 知	
												A	ウ	ア
												B		
												C	エ	イ
												D		

30 40 25 35

え

観点別

知・技	思・判・表
/12	/38

2

令7

ダイコンは大きな根？

1 年 組 番

氏 名

得 点

見本

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

目次へ戻る

④ × 1	③ × 2	② × 5	④ × 1	③ × 6	② × 4
9		8 思 7 思	6 思	5 思 4 思 3 思 2 思	1 知
(3) 思	(2) 思	(1) 思			
		1		始め	A ウ ア
		2		～	B
				終わり	エ イ
		3			C
見方	見方			という一面。	

30

40

20

10

観点別

知・技 /8

思・判・表 /42

3

令7

ちょっと立ち止まって

1 年 組 番

氏名

得点

見本

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

目次へ戻る

4

令7

大人になれなかった弟たちに……

1 年 組 番

氏名

得点

② × 4		④ × 1	④ × 7							⑤ × 2		
1 知		2 知	3 思	4 思		5 思	6 思	7 思		8 思		9 思
ア	ウ			(1)	(2)				(1)	(2)		
イ	エ											

っ

ときっ。

思い。

思い。

35

25

35

25

観点別

知・技 /12

思・判・表 /38

見本

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

目次へ戻る

⑤ × 1			④×1	⑤ × 2		④×1	⑤ × 3				③ × 4	
9 思			8 思	7 思	6 思	5 思	4 思		3 思	2 思	1 知	
											㋒	㋐
											㋓	㋑

25

35

20

場所。

10

える

見本

観点別

知・技

/12

思・判・表

/38

5

令7

星の花が降るころに

1 年

組

番

氏 名

得 点

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

目次へ戻る

6

令7

「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ

1 年 組 番

氏名

得点

④ × 2			⑥ × 1					④ × 6						② × 6					
10 思	9 思	8 思				7 思	6 思	5 思	4 思	3 思	2 知	1 知							
										あ	文節	ウ	ア						
		40										かった	う						
							5				つ								
						10				い	単語	エ	イ						
		50																	
						15 行動。	10				つ		しく						

観点別

知・技 /12

思・判・表 /38

見本

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

目次へ戻る

7

令7

蓬莱の玉の枝 ―「竹取物語」から

1 年 組 番

氏名

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	②×9		②×1	③×1	②×1	④×1	②×1	④×1	②×2	③×1	④×1
	知	知	知	(1)知	(2)思	思	思	思	知	知	思
	ア	ウ	a	c				あ	A		
	イ	エ	b	d				い	B		
	わして	えた			15		35 ことと。	う			40 と考えたから。
					25 光景。		25				30

観点別

知・技	思・判・表
/28	/22

得点

見本

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

目次へ戻る

8

令7

今に生きる言葉

1 年	
組	
番	
氏名	
得点	

観点別	
知・技	/29
思・判・表	/21

1 (知)	2 (知)	3 (知)	4 (思)	5 (知)	6 (思)	7 (思)	8 (思)	9 (知)	10 (思)
③×6	③×6	③×6	③×2	③×3	③×3	③×3	④×1	②×1	②×1
①		ア	I	④	⑧	(1)		莫(なキ)能(よク)陷(とほスモノ)也(なリト)。	( ) ↓ ( ) ↓ ( )
②						(2)			
③		④	II	⑥					

50

60

見本

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

目次へ戻る

9

令7

「不便」の価値を見つめ直す

②×1	③×1	⑤ × 1	② × 2	⑤ × 1	②×2	③ × 5			②×2	② × 4	
10 思	9 思	8 思	7 思	6 思	5 思	4 思		3 思	2 思	1 知	
			二つ目 一つ目		C	(2)	(1)	ウ ア	A	㋒	㋐
					D						
								イ	B	㋓	㋑

55

40

考え方。

45

30

す

観点別
知・技
/8
思・判・表
/42

1 年
組
番
氏 名
得 点

見本

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

目次へ戻る

④ × 1				③ × 4				④ × 1			③ × 5	③ × 5		
10 思				9 思	8 思	7 思	6 思	5 思			4 思	3 思	2 知	1 知
												A		ウ ア
												B		い
												C		エ イ
												D		めて

45

35

55

45

観点別

知・技
/15
思・判・表
/35

10

令7

少年の日の思い出

1 年

組

番

氏 名

得 点

見本

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

目次へ戻る

1

令7

はじまりの風

1 年　組　番

氏名

得点

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

③ × 4

1 ㊟

㋐ 前髪

㋑ 色彩

㋒ おどった

㋓ ふり

④ × 2

2 ㊟ 卒業生

3 ㊟ エ

⑥ × 1

4 ㊟ (例)小学校から来た友達は、ほとんど迷わずに、好きなことを選んでいるようにみえたから。

45

35

④ × 6

5 ㊟ 絵の中では

6 ㊟ A イ

7 ㊟ B ア

8 ㊟ 思い切った

9 ㊟ 美術の先生

10 ㊟ ア

（採点基準）4「友達」「好き」の二語がなければ不可。理由を述べる文末表現でなければ二点減点。

観点別	
知・技	/12
思・判・表	/38

見本

2

令7

ダイコンは大きな根？

1年	組	番	氏名

得点

（採点基準）
5 「～されると、～する仕組み。」の形で、「破壊」「辛み」の二語がなければ不可。
6 「上の部分」「円を描くように」「やさしく」という意味の三語がなければ不可。
8 「他の野菜」「新しい魅力」の二語がなければ不可。文末が「こと。」でなければ二点減点。

観点別	
知・技	/12
思・判・表	/38

1 ③×4 知
- ㋐ 普段
- ㋑ あと
- ㋒ 知恵
- ㋓ おさえ

2 ③×6 思
- A イ
- B エ
- C ウ
- D ア

3 根と胚軸の二つの器官

4 ③ 思 葉で作られ

5 ④×1 思 （例）虫にかじられて細胞が破壊されると、化学反応で辛みを発揮する仕組み。

6 ③×2 思 （例）ダイコンの上の部分を円を描くようにやさしくトろす。

7 ア

8 ④×1 思 （例）他の野菜も調べてみると、新しい魅力が見えてくるかもしれないということ。

9 ③×2 思 エ

10 ウ

本試験

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

目次へ戻る

3

令7

ちょっと立ち止まって

1年　組　番　氏名

得点

（採点基準）
6 「絵」の一語がなければ不可。
9 (3) 文末が「こと。」でなければ二点減点。
「見た物」「発見」の二語がなければ不可。
理由を述べる文末表現でなければ二点減点。

観点別

知・技	思・判・表
/8	/42

② × 4

1 知

ア 指摘

イ あご

ウ しゅうれい

エ 露出

③ × 6

2 思 A イ / B ウ / C ア

3 思 背景

4 思 ピントが少女に合わせられてしまう

5 思 始め 一瞬のうち ～ 終わり とができる（完答）という一面。

④ × 1

6 思 (例)今見えている絵を意識して捨て去ること。

② × 5

7 思 イ

8 思 1 ア / 2 イ / 3 エ

② (1) 思 私たちは、

③ × 2

(2) 思 (例)中心に見るものを変える見方 / (例)見るときの距離を変える見方

④ × 1

9 (3) 思 (例)見た物の他の面に気づき、新しい発見の驚きや喜びを味わうことができるから。

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

模範

4

令7

大人になれなかった弟たちに……

1年	組	番	氏名

得点

（採点基準）
2 母と／僕に／見守られて、／弟は／死にました
8 (1) 「～とき。」につながる形でなければ不可。
(2) 「成長」「わが子」の二語がなければ二点減点。
「～思い。」につながる形でなければ不可。
9 「つらさ」「戦争」の二語がなければ二点減点。
「～思い。」につながる形でなければ二点減点。

観点別	
知・技	/12
思・判・表	/38

1 ② × 4 知
㋐ えんりょ
㋑ 空襲
㋒ ばくげき
㋓ 杉板

2 ④ × 1 知
五つ（漢字指定）

3 思
泣きもせず

4 思 7
(1) エ
(2) ブウーンブ

5 思 ④ × 7
僕
母
弟
（完答）（順不同）

6 思
ア

7 思
イ

8 思 2 ⑤ ×
(1) （例）ヒロユキのひざを曲げて棺に入れたとき。
(2) （例）栄養失調でも成長していたわが子に対し申し訳ないという思い。

9 思
（例）つらさや悲しみをもたらした戦争を決して繰り返してはならないという思い。

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

本試験

目次へ戻る

5

令7

星の花が降るころに

1年	組	番	氏名

観点別	知・技	思・判・表	得点
	/12	/38	

（採点基準）
4 「守られる」の意がなければ不可。
9 「～場所。」につながる形でなければ二点減点。
「夏実」「友情」の二語がなければ不可。
「～決意した。」の形でなければ二点減点。

③×4 知

1

ア 俺

イ こかげ

ウ やっかい

エ 抱える

⑤×3 思

2 ウ

3 丸屋根の部屋のようだ

4 （例）どんなことからも木が守ってくれる場所。

④×1 思

5 エ

⑤×2 思

6 タ方に

7 エ

④×1 思

8 ア

⑤×1 思

9 （例）夏実との友情だけにこだわらず、新たな一歩をふみ出すことを決意した。

見本

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

目次へ戻る

6

令7

「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ

年	組	番	氏名
1			

得点

（採点基準）
2 〔文節〕シジュウカラの／行動変化を／観察しました
〔単語〕シジュウカラ／の／行動変化／を／観察し／まし／た
8 文末が「こと。」でなければ二点減点。

観点別	
知・技	/12
思・判・表	/38

1 ×6 ②知

㋐	舞	う
㋑	詳	しく
㋒	掛	かった
㋓	いばしょ	

2 ×6 ②知

文節	三	つ
単語	七	つ

3 思

㋐	エ
㋑	オ

4 思 ×6 ④

ヘビを警戒

5 思

ウ

6 思 ④

（例）ヘビを見つけて鳴く

7 思

（例）地面や巣箱を確認する行動。

8 思 ×1 ⑥

（例）「ピーッピ」という鳴き声を聞いたシジュウカラは、首を左右に振り、周囲を警戒する行動をとること。

9 思 ×2 ④

親鳥が卵や

10 思

エ

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

見本

目次へ戻る

7

令7

蓬莱の玉の枝 ―「竹取物語」から

年	組	番	氏名
1			

得点

（採点基準）
1 7　5 2　ひらがなでなければ不可。
「三寸」の一語がなければ不可。
「～光景。」につながる形でなければ二点減点。
「～こと。」につながる形でなければ二点減点。
「～と考えたから。」につながる形でなければ二点減点。

観点別	
知・技	/28
思・判・表	/22

1 ×9 ②

1 知 ㋐ ちゅうしゅう ㋑ 遣わして
1 知 ㋒ 添えた ㋓ はごろも
2 知 a いう b よろず
2 知 c うつくしゅう d いたり
3 知 ア

4 ②×1 ③×1
(1) 知 (例) 不思議に思って
(2) 思 もと光る竹

5 ④×1 思
(例) 光る竹の筒の中に三寸ほどの人が座っている。光景。

6 ②×1 思 ふじの山（富士山）

7 ④×1 思
(例) かぐや姫から贈られた手紙と不死の薬を、火をつけて燃やすと いうこと。

8 ②×3 思
あ ウ
い カ
う ク

9 ②×2 知
A を
B は

10 ③×1 知 兵士たちをたくさん引き連れて

11 ④×1 思
(例) 天に近い山で燃やせば、天にいるかぐや姫に煙が届き、自分の思いが伝わると考えたから。

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

試作版

目次へ戻る

8

令7

今に生きる言葉

1 年	組	番	氏名

（採点基準）8 「矛」「盾」「つじつま」の三語がなければ不可。理由を述べる文末表現でなければ二点減点。

観点別	知・技	思・判・表
	/29	/21

得点

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

1 (知)	①	オ	
	②	イ	
	③	ウ	
2 (知)	故事成語（漢字指定）		
3 (知)	ア	いわく	
	イ	ことうる	
4 (思)	Ⅰ	盾（漢字指定）	
	Ⅱ	矛（漢字指定）	
5 (知)	④	（例）つき通せるものはない	
	⑥	（例）つき通せないものはない	
	⑧	（例）つき通すとどうなるのか	
6 (思)	イ		
7 (思)	(1)	盾と矛を売る者	
	(2)	c	
8 (思)	（例）どんなものでもつき通せる矛と、どんなものもつき通さない盾とが同時に存在することはありえず、話のつじつまが合わないから。		
9 (知)	莫能陷也（なキニよクとほスモノなりト）		
	3		
	1		
	2		
	4		
10 (思)	（イ）→（ウ）→（ア）		

（完答）

（完答）

模範解答

目次へ戻る

9

令7

「不便」の価値を見つめ直す

1 年 組 番 氏名

得点

（採点基準）
6 「～考え方。」につながる形でなければ二点減点。
8 「不便だ」「楽しみ」の二語がなければ不可。理由を述べる文末表現でなければ二点減点。

1 ②×4 知
- ㋐ いじ
- ㋑ うながす
- ㋒ 賛同
- ㋓ 面倒

2 ②×2 思
- A ウ
- B エ

3 ③×5 思
- ア 発見や出会
- イ 体力や知力
- ウ 人間の意欲

4 ③×5 思
- (1) イ
- (1) エ（完答）
- (2) これまでの常識

5 ②×2 思
- C 便利
- D 不便

6 ⑤×1 思
- 「不便」だからこそ得られるよさを生かして新しいデザインを創り出そうという考え方。

7 ②×2 思
- 一つ目 自動車の運転支援の在り方
- 二つ目 観光ツアーの仕掛け作り

8 ⑤×1 思
- （例）日々の生活の中で、不便だと思ってさけてきた物事の中に、新しい気づきや楽しみが隠れているかもしれないから。

9 ③×1 思 イ

10 ②×1 思 ア

観点別
- 知・技 /8
- 思・判・表 /42

見本

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

目次へ戻る

10

令7

少年の日の思い出

1 年	組	番	氏名

（採点基準）
5 「盗み」「すぐに」「壊す」の三語がなければ不可。文末が「こと。」でなければ二点減点。
10 「償い」の一語がなければ不可。「エーミールが」の書き出しでなければ不可。理由を述べる文末表現でなければ二点減点。

1 ㋐	たんねん	㋑	眺めて
1 ㋒	つぐない	㋓	闇
2	エーミールは		
3 A	カ		
3 B	イ		
3 C	エ		
3 D	ウ		
4	イ		
5	ついぎみをしてしまったが、すぐに戻しに行ったし、壊すつもりはなかったということ。		
6	イ		
7	エ		
8	ウ		
9	イ		
10	（例）エーミールが「僕」のちょうを受け取らないので、自分のちょをうをつぶして罪の償いをするしかなかったから。		

観点別	
知・技	/15
思・判・表	/35
得点	

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

本番